

# テレビドラマを通してみるホモソーシャル리티の考察

## A Study of Homosociality through Television Dramas

1K06B072

加藤 光春

指導教員 主査 リー・トンプソン先生

副査 宮内孝知先生

### 【第1章】

テレビドラマは非常に人気の高い映像コンテンツであり、その人気を支えるのは、主に若い女性視聴者たちである。テレビドラマのなかでも、特に人気の高いジャンルに「スポーツドラマ」がある。こうしたスポーツドラマのなかでは、男性同士の絆が美的に描かれる。女性視聴者向けのドラマにおいて、なぜ男性内での友情がクローズアップされて描かれるのか。また、なぜそのようなドラマが女性達に支持されるのか。その謎を読み解くカギこそが、「ホモソーシャルiti」である。そこで、第1章では、「ホモソーシャルiti」の解説と、「男らしさ」とスポーツとの歴史的関連性をまとめた。伝統的な男性中心社会において、男性的な精神の形成や、社会的役割の認識のために、「スポーツ」は非常に大きな役割を果たしてきた。そのため、ホモソーシャル的な男女関係と、それを支える社会通念において、スポーツは大きな意義を持っているのだ。

### 【第2章】

伝統的「男らしさ」と現代的「男らしさ」の比較及びその変化の過程についての考察を行った。女性に対する優位性や、強さが強調されたかつての「男らしさ」は、フェミニズム思想などの影響を受け、大きな変化を遂げつつある。この他、男性同性愛者について、人権や、社会的地位といった現状と、ホモソーシャルitiのなかで生じやすいとされる、同性愛嫌悪「ホモフォビア」についてもまとめた。

### 【第3章】

「女らしさ」という概念について、母性や、性役割意識といった観点から考察を行った。「女らしさ」とは男性優位社会において形成された美德感であり、そうしたジェンダーイメージにおいて、女性達は、男性を従属的に支える存在であることを期待される。また、そうした「女らしさ」を変化させてきた思想としてフェミニズムを紹介し、フェミニズムの歴史から、「女らしさ」の変化についてもまとめた。最後に女性同性愛者について、男性中心社会から受ける偏見や束縛について解説した。

### 【第4章】

実際に、『プライド』『ブザー・ビート』『WATER BOYS』といったスポーツドラマを視聴し、作品分析を行った。それぞれのドラマにおいて、登場人物のセリフや行動、男女関係などの描写のなかに、ホモソーシャル的な社会構造を確認することができた。「スポーツ」という、高度に男性化された領域を扱うこれらのドラマにおいては、古典的な「男らしさ」の強調が可能であり、それを従属的に支える存在として描かれる女性像に、現実のホモソーシャル社会に生きる女性達は共感を覚えるのだ。

### 【第5章】

これまでの章で得られた考察・分析から、結論を導く。現代は、男性優位社会から、男女同権社会への変化の過渡期にある。労働面において権利を獲得し、「職場」という男性中心の社会

に進出した女性達は、かえって、伝統的な男女関係による束縛を受けるようになった。そして、現代女性達は、そうした環境に適応するための手段として、既存のジェンダーイメージへの回帰、という手段をとるようになった。そうした古典的な女性的役割を担った女性達の異性愛指向は、動物的・肉体的優位性が強調される、ホモソーシャル的な「男らしさ」に向くようになった。そのため、伝統的な、ホモソーシャル的男女関係が描かれるスポーツドラマが女性視聴者に支持されるのは必然なのだ。